

# 伊江島の植物図鑑

The Picture Guide Book of Plants in Ie Island



伊江村教育委員会

## 凡 例

- 1 . 本書は伊江島で確認されている自生植物や帰化植物などの中から336種（亜種や変種等を含む）を取り上げ解説した図鑑である。
- 2 . 植物は森林、農耕地、住宅地、岩礁海岸、砂浜海岸の5つの環境に分け、各環境で見られる代表的な種を取り上げ、その順序は分類順に配列した。なお、場所によっては、森林断面図や林冠投影図、植生調査票も添付した。
- 3 . 植物の解説は、和名、学名、科名、生息環境、形態的な記載、生息現況、方言名とその由来等の順とした。
- 4 . 本書では植物図鑑の他に、植物の種子散布や植物の利用等についても解説した。
- 5 . 巻末の植物目録は、これまで文献により伊江島で記録のある植物と新たに確認された植物種をまとめたものである。

## 発刊のことば

春には、菜（マーナ）の花やテッポウユリが咲き誇る伊江村は、全体的に平坦な地形をなし、北海岸には、砕ける波しぶきに根付く大規模な岩礁性のハダ植物群落が広がっています。また、島の中央東よりには、島のシンボルである伊江島タッチュー城山（ぐすくやま）が、海拔172mの高さでそびえています。この城山は遥か古代にオフスクレープ現象（古い岩盤が新しい岩盤に潜り込む中で、一部が剥がれて新しい岩盤に乗る現象）で現れ、生物の死骸が蓄積したチャートから形成される世界でも珍しい地殻変動のロマンを今に伝えています。その城山には、稀少植物で島固有のイエジマチャセンシダを始め様々な植物が自生し、独特な森林植生が見られます。

太古より人類は植物と関わり、これを利用することで大いなる恩恵を受け、文明の発展を遂げました。私たち伊江村においても、祭事や食用、薬用、飼料用など様々な用途で植物が利用され、島の文化基盤の核として植物が関わっています。私たちはこれまでこの自然の恵みをあますことなく享受してきました。ところが、近年の社会や経済的な発展は、私たちに物質的豊かさはもたらしてくれたものの、一方では自然との関わりの中で植物種の保存と文化の継承をどのようにして行い、それをどう伝えていくかという大きなテーマも生み出しました。そんな中、待望の「伊江島の植物図鑑」が発刊されることに大きな期待と喜びを感じます。

本書は、伊江村の自然環境保全と児童生徒の自然学習や島文化の継承図書として村内外で広く活用されるものだと確信いたします。

末尾に、長期間、現地調査や写真撮影、編集に携わっていただいた作成委員の糸山耕一氏、大城文進氏、内間俊英氏、知念正光氏、内間ヨシ子氏、宮里徳成氏の皆様と、専門的見識から御協力をいただいた新里孝和先生、髙原建二先生の御奮闘に心から敬意とお礼を申し上げます。発刊のことばといたします。

平成14年3月

伊江村教育委員会  
教育長 棚原 信 男





伊 江 島 の 植 物 図 鑑  
INDEX

発刊のことば

伊江島の位置と主な植生調査地 .....	4
・ 伊江島の植物相の特徴 .....	6
・ 伊江島の各環境における植物図鑑 .....	8
( 1 ) 森林地域の植物 .....	8
( 2 ) 農耕地・道路沿いの植物 .....	57
( 3 ) 住宅地・屋敷林の植物 .....	99
( 4 ) 岩礁海岸や海岸崖地の植物 .....	117
( 5 ) 砂浜海岸の植物 .....	137
( 6 ) 分布記録はあるが、 自生が確認されていない植物 .....	155
・ 植物の種子散布 .....	156
・ 植物と人間の関わり .....	164
< 参考文献 >	
( 付録 )	
主な植物用語の図説 .....	169
伊江島の植物目録 ( 2002年 ) .....	174
和名索引 .....	195
方言名索引 .....	199
あとがき	
奥付け ( 編集委員・編集協力者一覧 )	

# 伊江島の位置と主な植生調査地



- 森林地域の植物( 城山 )
- 農耕地・道路沿いの植物( 西崎 )
- 住宅地・屋敷林の植物( 西江上 )
- 岩礁海岸・海岸崖地の植物( リリーワールド )
- 砂浜海岸の植物( 浜崎海岸 )

# 伊江島の植物

サツマサンキライ



ヤブツバキ



ツフフキ



ノアサガオ

## 伊江島の植物相の特徴



伊江島の植物相や植生は、地質、土壌、地形などに対応して、沖縄の他の地域や島と大きく異なることはない。ほぼ全景が低平地形で琉球石灰岩上に分布する島尻マーヅと呼ばれる赤褐～褐色土壌が広がり、畑地に利用され、また今次大戦の影響もあると思われるが、自然に近い植生は耕作し難いところと挿所などの少ない小面積の地所にみられるに過ぎない。島に生育する植物の特徴を、海岸の砂浜地と岩礁地、内陸の挿所林と城山の森林、人の生活との関係で屋敷林、路傍や畑地で調べることにした。ここでは既存の報告から植生や植物相を概観してみよう。

南東側の海岸砂浜地には汀線からハマニガナ - ハマヒルガオ群落、ツキイゲ - カワラアカザ群落、ツルナ群落、クサトベラ - モンパノキ群落、アダン群落が発達し、その後方陸地側にモクマオウ林～畑地～集落が続く。南西側西崎の隆起珊瑚礁岩上には海岸先端部のソナレムグラ - ハリツルマサキ群落、オキナワシャリンバイ - ハリツルマサキ群落からニャティヤ御獄付近で風衝地のオキナワシャリンバイ - クロヨナ群落がみられる。北側海岸の隆起珊瑚礁岩上には飛沫帯からイソフサギ群落、ウコンイソマツ群落、コウライシバ - ソナレムグラ群落、クサトベラ - モンパノキ群落、アダン群落が、湧出のような崖状地の岩上にはホソバワダン - ヒメスイカズラ群落、コウライシバ - ボタンボウフウ群落、土壌が堆積しているところにはソテツ群落、ススキ群落が発達する。

内陸側の琉球石灰岩からなる低地には照太寺林分にみられるヤブニッケイ - ツゲモドキ群落、フシャティムイ御獄のクハノハエノキ - フウトウカズラ群落、城山の地質はチャートや石灰岩、粘板岩からなり斜面部ではタブノキ - イスノキ群落、リュウキュウマツ群落が、急崖地から頂上付近ではオキナワシャリンバイ - ヒメハマナデシコ群落の風衝植生が発達する。内陸林には琉球列島の森林植生を構成する標徴種が分布するが、群団あるいは群集標徴種がここでは混生したり、代表種のひとつである非石灰岩地のイタジイ、石灰岩地のクスノハカエデが欠けることなど特異性を示す。

植物相は報告者によって新しく記載されたり未確認種とされるが、これまで記録されたシダ類以上の高等植物は多和田・上地（1935）が274種、初島・宮城 1974 が405種（帰化品83種）を目録

とし、小川（1995）が369種を確認した。分布上注目される植物として7種あげられている。

#### イブスキイノモトソウ

リュウキュウイノモトソウとイノモトソウの雑種とされ、鹿児島県と沖縄県の沖縄島、瀬底島に分布し、初島・宮城（1974）が城山で記録している。

#### イエジマチャセンシダ

本州、四国、九州、奄美大島、徳之島、沖縄島に分布するカミガモシダの変種、伊江島に隔離分布している固有（変）種である。岩上に生育し個体数がきわめて少なくレッドデータおきなわのカテゴリーで絶滅危惧種となっている。

#### ヒメハマナデシコ

本州、四国、九州、琉球列島の奄美大島、喜界島、徳之島、伊江島、西表島に分布する。通常は日当たりのよい海岸岩場に生育するが、ここでは海岸の岩地と内陸の城山付近にみられる。個体数がきわめて少なくレッドデータおきなわのカテゴリーで危急種となっている。

#### リュウキュウヒキノカサ

本州～九州、中国、朝鮮に分布するヒキノカサの変種、琉球列島の徳之島、沖永良部島、沖縄島、伊江島に隔離分布している固有（変）種で、植物地理学上の貴重種である。レッドデータおきなわのカテゴリーで危急種となっている。

#### ウマノアシガタ

本州～九州、中国、朝鮮に分布し、琉球列島では沖縄島、伊江島に隔離分布する、植物地理学上の貴重種である。個体数が少なくレッドデータおきなわのカテゴリーで危急種となっている。

#### カイナンノアズキ

初島・宮城が伊江島の原野に生育する琉球列島の新記録種ヒメクス（ノアズキ）として記載したが、増補訂正・琉球植物目録（初島・天野、1994）でカイナンノアズキに改められた。本種は中国南部～インドに分布し、日本では伊江島に隔離分布する、植物地理学上の貴重種である。

#### ボウコツルマメ

台湾、フィリピン、ミクロネシア、オーストラリアに分布し、琉球列島では沖永良部島、伊江島の海岸の断崖や原野に生育する。個体数が少なくレッドデータおきなわのカテゴリーで危急種となっている。

### 伊江島に分布する特異な植物



イエジマチャセンシダ

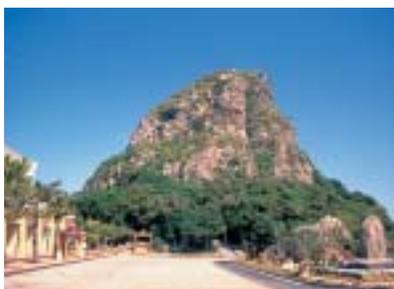


ヒメハマナデシコ



ウマノアシガタ

### 様々な植生の所在する他の地域



城山



浜崎海岸



カダ原岩礁海岸

# ● 伊江島の各環境における植物図鑑

## (1) 森林地域の植物



城山のようなまとまった森林が見られる環境には、伊江島固有のイエジマチャセンシダに代表される在来種が数多く見られる。

### (1) 低地林

琉球石灰岩の基盤に発達する自然の低地林は露岩が多く、断層線に残る石灰岩上の林分や小面積ながらまとまりのある照太寺の林分、フシャティムイ御獄林などに残存する。その他リュウキュウマツ人工林の二次植生、放棄畑跡地のギンネム林がみられる。

照太寺のヤブニッケイ - ツゲモドキ群落は高さが6 mくらいで、林冠の亜高木層にはヤブニッケイが優占するほかハゼノキ、ツゲモドキ、オキナワシャリンバイ、クロヨナ、ハマイヌビワ、アカテツ、リュウキュウガキ、ハマビワ、モクタチバナ、クワノハエノキ、シマグワなど、低木層にはシヤママヒハツ、ゲッキツ、イヌビワ、ナガミボチョウジ、リュウキュウクロウメモドキ、トベラ、フクマンギ、アミガサギリなど、草本層にはヤブランが優占し、フウトウカズラ、ハマサルトリイバラ、サクララン、クワズイモなどが生育する。

フシャティムイ御獄林の露岩はチャートや石灰岩の混在する林分で、樹高が10~14mになり、高木層から草本層までの階層構造が発達する。クワノハエノキ - フウトウカズラ群落は、高木層にはクワノハエノキ、ハゼノキの大径木が樹冠を広げ、亜高木層にはリュウキュウガキ、クスノハガシワ、モクタチバナ、イスノキなど、低木層にはクロツグの葉の群生がみられ、草本層にはフウトウカズラが林床の大部分を占め、ほかに上木の稚樹やクワズイモ、オニヤブソテツ、ハチジョウシダ、ホシダ、オオシマコバンノキなどが出現する。

リュウキュウマツ林の構成種は石灰岩植生の林分とほぼ同様で、ヤブニッケイ、サンゴジュ、ツゲモドキ、ハゼノキ、トベラ、ゲッキツ、マサキ、シヤママヒハツ、フクマンギなどの木本類、ホシダ、エダウチチヂミザサ、ヤブラン、などの草本類、タイワンクスズ、ヘクソカズラ、ノアサガオ、ハマサルトリイバラなどのつる類が生育する。ギンネムは外観的には単純林を形成し、長く偏向遷

移を維持するが、林分にはシマグワ、クワノハエノキ、トベラ、イヌビワ、クチナシ、リュウキュウボタンズル、ヤブラン、クロミノオキナワスズメウリ、テッポウユリなどの石灰岩植生の構成種が多い。

## (2) 城山の森林

城山はチャートや粘板岩が露出し、低地の琉球石灰岩植生と異なるタブノキ - イスノキ群落が発達する。岩崖の頂上付近には岩の空隙に生える植物たちの風衝植生、オキナワシャリンバイ - ヒメハマナデシコ群落がみられる。

タッチーの下部斜面に分布するタブノキ - イスノキ群落は、階層構造がよく発達し、高木層が8 ~ 15mに達する。調査地に選んだ林分はリュウキュウマツが多く、マツノザイセンチュウ被害の伐倒駆除などで立木本数が減少しているが、リュウキュウマツ人工林後の途中遷移相である。高木層はハゼノキが優占し、林分によってはリュウキュウマツ、タブノキなどの大径木が生育する。二次林で森林の面積幅が小さいことなどから、つる類が林冠によく伸び、リュウキュウテイカカズラ、イルカンダ、サカキカズラ、サツマサンキライなどが群生する。亜高木層は植被率が低下し種数も調査区の中中部、上部では高木層と同じで、オキナワシャリンバイ、クチナシ、ヤマモモなどが出現する。一帯の低木層にはヤブツバキの頻度が高く、ポチョウジ、クチナシ、トベラ、ゲッキツ、ツゲモドキ、ヤブニッケイ、ハマビワ、リュウキュウチク、リュウキュウモクセイなど、非石灰岩地と石灰岩地の植物が混生する。草本層はハウビカンジュが優占し、コバノカナワラビ、ナガバカニクサ、シラタマカズラ、オオアマクサシダ、フウトウカズラ、ヒラミレモンがよくみられる。

岩崖から頂上付近には矮生化したオキナワシャリンバイがよく分岐して枝葉を広げ、トベラ、ポチョウジ、アデク、ギーマ、カンコノキ、リュウキュウチク、リュウキュウモクセイ、ガジュマルなどの木本類、ノキシノブ、タマシダ、ヒトツバ、ヒゲスゲ、キキョウラン、ボウランなどの草本類、リュウキュウテイカカズラ、シラタマカズラ、サカキカズラなどのつる類がよくみられる。

## 森林植生の所在する他の地域



ダキ山



テラの山

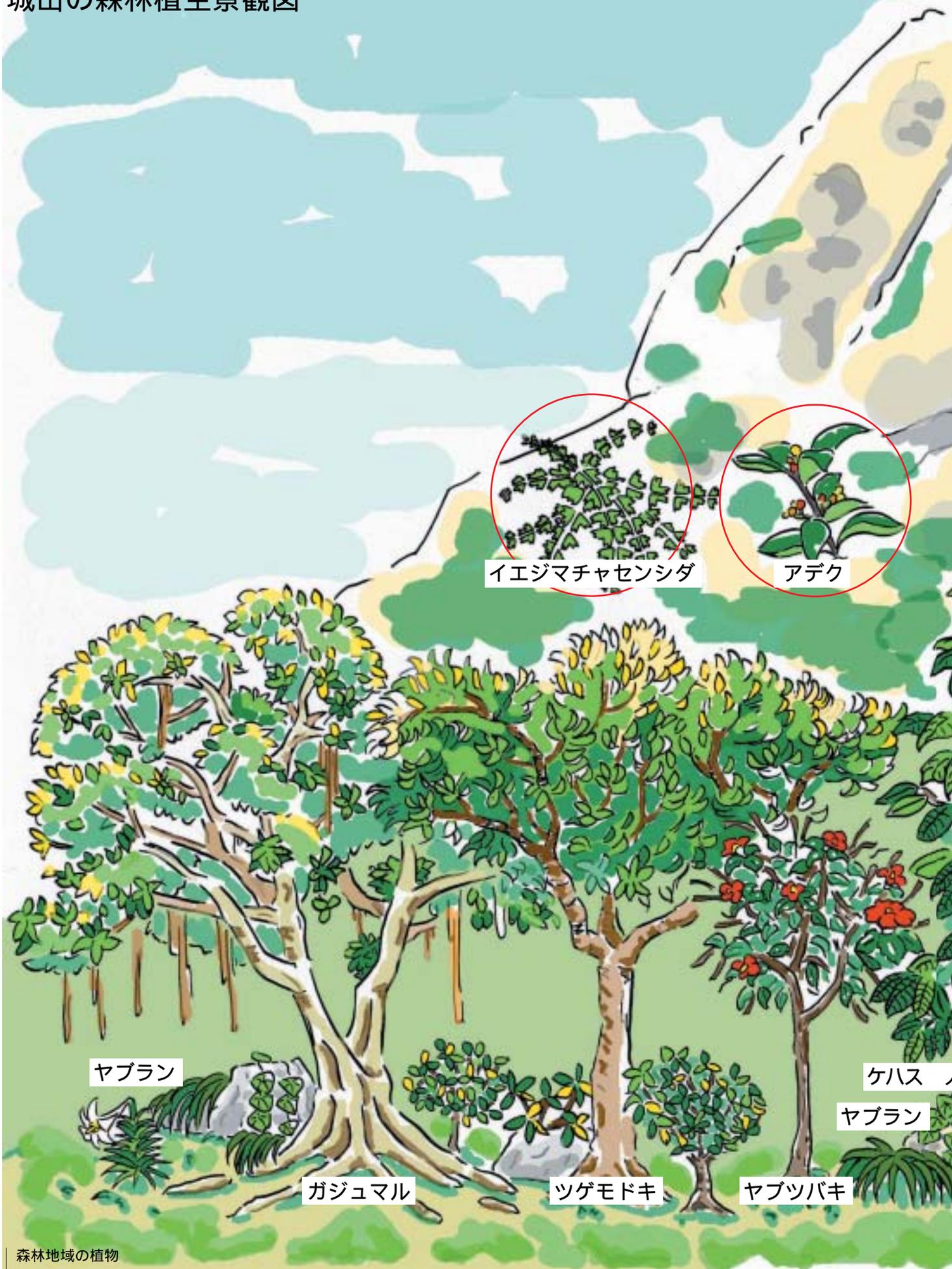


ゴヘズ山



フシャティムイ御嶽林内

# 城山の森林植生景観図



イエジマチャセンシダ

アデク

ヤブラン

ケハス

ガジュマル

ツゲモドキ

ヤブラン

ヤブツバキ



ホウビカンジュ

ボウラン

オオバギ

タブノキ

ノハカズラ

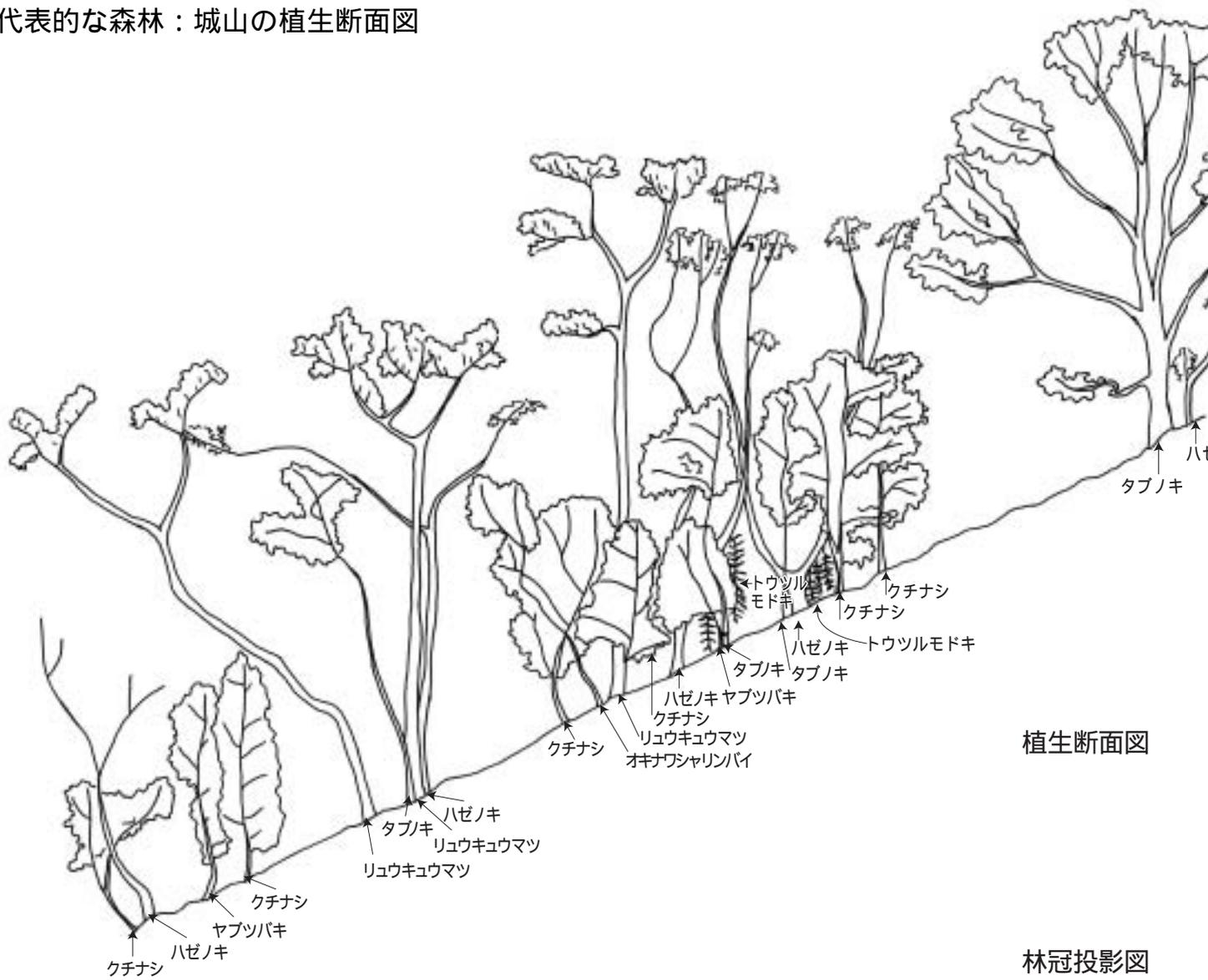
ハマイヌビウ

テッポウユリ

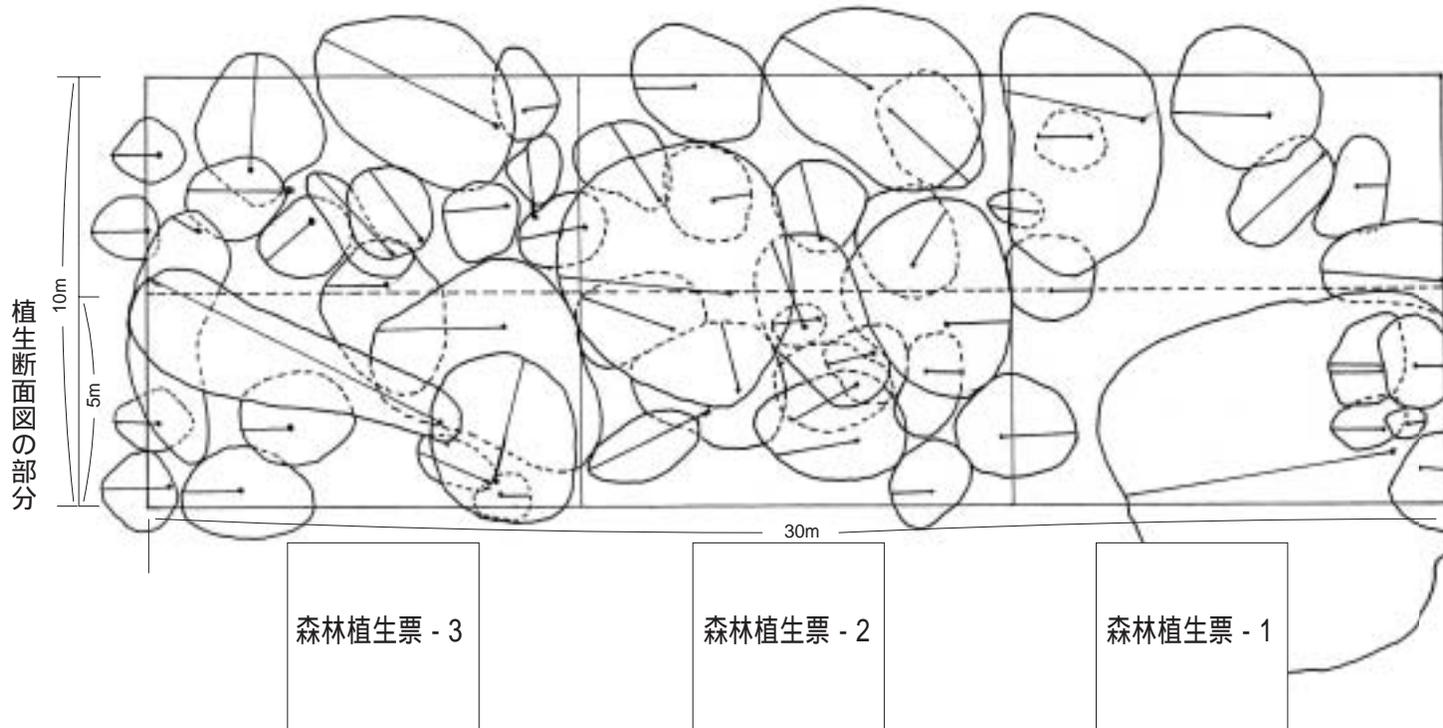
トベラ

アコウ

代表的な森林：城山の植生断面図



植生断面図



林冠投影図

### 城山の森林植生票 - 1

群落名 ハゼノキ - ホウジカンジュ群落、斜面㊦  
 調査面積 100m(10m x 10m)  
 斜面方位 傾斜角  
 群落高 高木層 8~12m 亜高木層 5~8m  
 低木層 1~5m 草本層 1m  
 植被率 高木層 60% 亜高木層 30%  
 低木層 50% 草本層 20%

出現種	優占度・群度	出現種	優占度・群度
高木層		低木層(つづき)	
ハゼノキ	3・3	シラタマカズラ	+
リュウキュウマツ	3・1	ソメモノカズラ	+
リュウキュウテイカズラ	2・2	サカキカズラ	+
イルカンダ	1・2	イルカンダ	+
亜高木層		ケハスノカズラ	+
ハゼノキ	3・1	ナガバカニクサ	+
リュウキュウテイカズラ	2・2	ホウビカンジュ(着生)	+
シラタマカズラ	+・2	草本層	
サツマサンキライ	+・2	ホウビカンジュ	2・2
フウトウカズラ	+・2	ヤブツバキ	+
サカキカズラ	+・2	ボチヨウジ	+
タブノキ	+	ゲッキツ	+
クチナシ	+	モクタチバナ	+
オキナワシャリンバイ	+	オキナワシャリンバイ	+
イルカンダ	+	リュウキュウモクセイ	+
低木層		ヤブニッケイ	+
クチナシ	3・3	ヒラミレモン	+
ボチヨウジ	2・3	ツゲモドキ	+
ヤブツバキ	2・2	タブノキ	+
リュウキュウチク	+・2	ハマビワ	+
リュウキュウテイカズラ	+・2	イヌマキ	+
ヤブニッケイ	+	リュウキュウチク	+
モクタチバナ	+	オオムラサキシキブ	+
タブノキ	+	リュウキュウテイカズラ	+
ツゲモドキ	+	サツマサンキライ	+
トベラ	+	フウトウカズラ	+
リュウキュウモクセイ	+	サカキカズラ	+
ゲッキツ	+	シラタマカズラ	+
イヌビワ	+	イルカンダ	+
ハマビワ	+	ナガバカニクサ	+
オオシマコバンノキ	+	クワズイモ	+
フウトウカズラ	+	オオアマクサシダ	+

### 城山の森林植生票 - 2

群落名 ハゼノキ-ホウジカンジュ群落、斜面㊧  
 調査面積 100m(10m x 10m)  
 群落高 高木層 12~15m 亜高木層 5~8m  
 低木層 1~5m 草本層 1m  
 植被率 高木層 85% 亜高木層 40%  
 低木層 30% 草本層 40%

出現種	優占度・群度	出現種	優占度・群度
高木層		低木層(つづき)	
ハゼノキ	5・4	トウツルモドキ	+
リュウキュウマツ	2・1	ソメモノカズラ	+
リュウキュウテイカズラ	1・2	サツマサンキライ	+
イルカンダ	+・2	イルカンダ	+
サツマサンキライ	+・2	ナガバカニクサ	+
トウツルモドキ	+・2	ホウビカンジュ(着生)	+
サカキカズラ	+・2	草本層	
亜高木層		ホウビカンジュ	3・3
クチナシ	3・2	ボチヨウジ	1・2
トウツルモドキ	+・2	ヤブツバキ	+・2
タブノキ	+	コバノカナワラビ	+・2
ヤマモモ	+	タブノキ	+
オキナワシャリンバイ	+	ヤブニッケイ	+
リュウキュウテイカズラ	+	ツゲモドキ	+
フウトウカズラ	+	リュウキュウモクセイ	+
低木層		ヒラミレモン	+
ボチヨウジ	2・2	モクタチバナ	+
クチナシ	1・2	ハマビワ	+
タブノキ	+	ゲッキツ	+
リュウキュウモクセイ	+	イヌビワ	+
ヤブツバキ	+	リュウキュウチク	+
モクタチバナ	+	リュウキュウテイカズラ	+
ゲッキツ	+	シラタマカズラ	+
イヌビワ	+	フウトウカズラ	+
リュウキュウチク	+	サカキカズラ	+
リュウキュウテイカズラ	+	ナガバカニクサ	+
フウトウカズラ	+	オオアマクサシダ	+

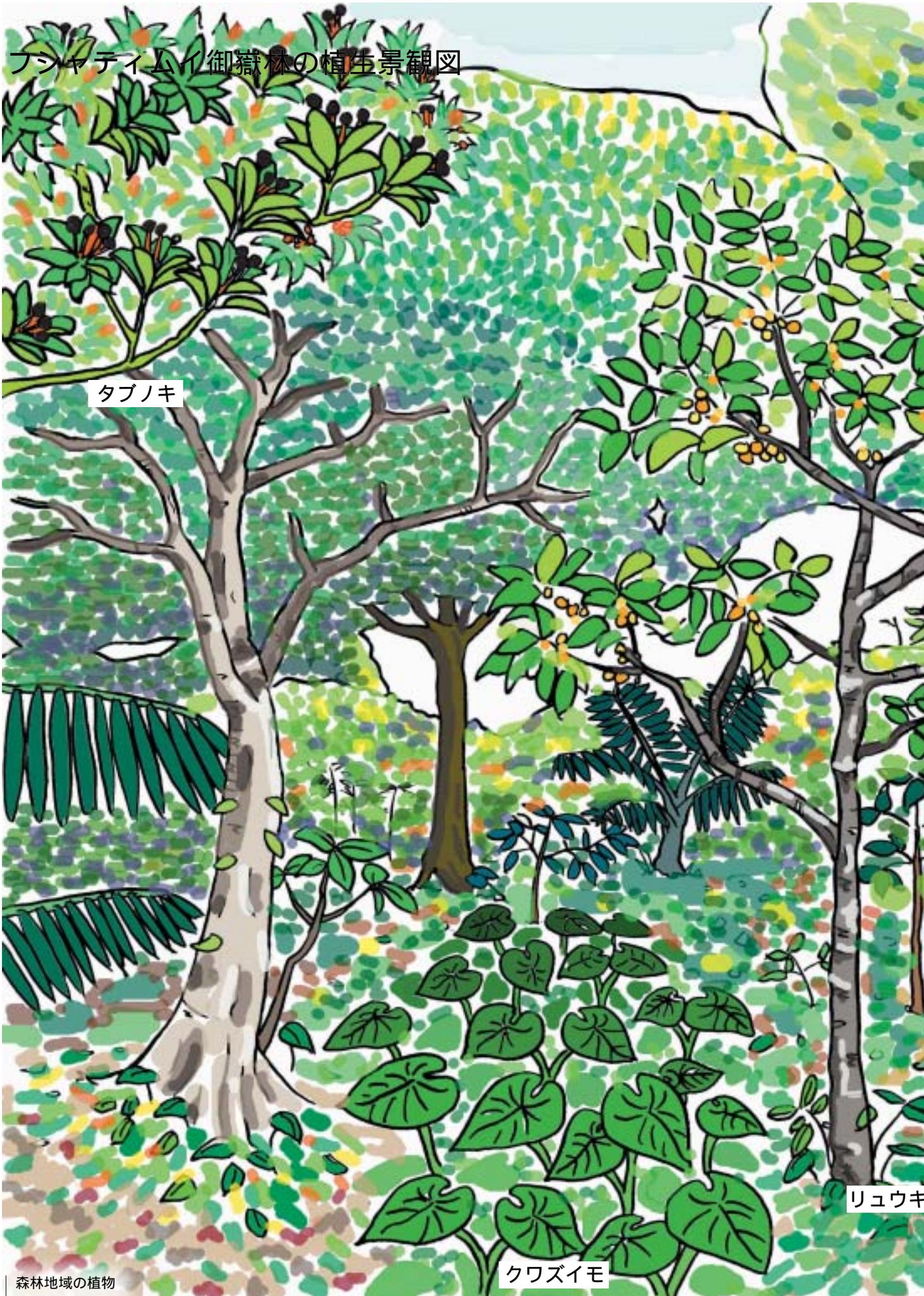
### 城山の森林植生票 - 3

群落名 ハゼノキ-ホウジカンジュ群落、斜面㊨  
 調査面積 100m(10m x 10m)  
 群落高 高木層 10~12m 亜高木層 4~8m  
 低木層 1.5~4m 草本層 1.5m  
 植被率 高木層 80% 亜高木層 20%  
 低木層 20% 草本層 60%

出現種	優占度・群度	出現種	優占度・群度
高木層		低木層(つづき)	
タブノキ	5・1	シラタマカズラ	+
ハゼノキ	2・2	イルカンダ	+
リュウキュウテイカズラ	+・2	クロミノオキナワスズメウリ	+
イルカンダ	+・2	草本層	
サカキカズラ	+・2	ホウビカンジュ	3・3
亜高木層		モクタチバナ	1・2
クチナシ	2・2	コバノカナワラビ	1・2
ハゼノキ	1・1	ヤブニッケイ	+
ヤブツバキ	+	リュウキュウモクセイ	+
リュウキュウテイカズラ	+	ヤブツバキ	+
サカキカズラ	+	ヒラミレモン	+
低木層		ゲッキツ	+
ボチヨウジ	2・2	クチナシ	+
タブノキ	+	ボチヨウジ	+
ヤブニッケイ	+	リュウキュウテイカズラ	+
ツゲモドキ	+	シラタマカズラ	+
リュウキュウモクセイ	+	サツマサンキライ	+
オキナワシャリンバイ	+	サカキカズラ	+
ヤブツバキ	+	トウツルモドキ	+
モクタチバナ	+	フウトウカズラ	+
イヌビワ	+	クロミノオキナワスズメウリ	+
リュウキュウチク	+	ナガバカニクサ	+
リュウキュウテイカズラ	+	オオアマクサシダ	+
		クワズイモ	+

ハゼノキ  
 クチナシ  
 ヤブツバキ  
 リュウキュウマツ  
 タブノキ  
 オキナワシャリンバイ

フシヤテイムイ御嶽林の植生景觀図



タブノキ

リュウキ

クワズイモ



ハゼノキ

オオバギ

フウトウカズラ

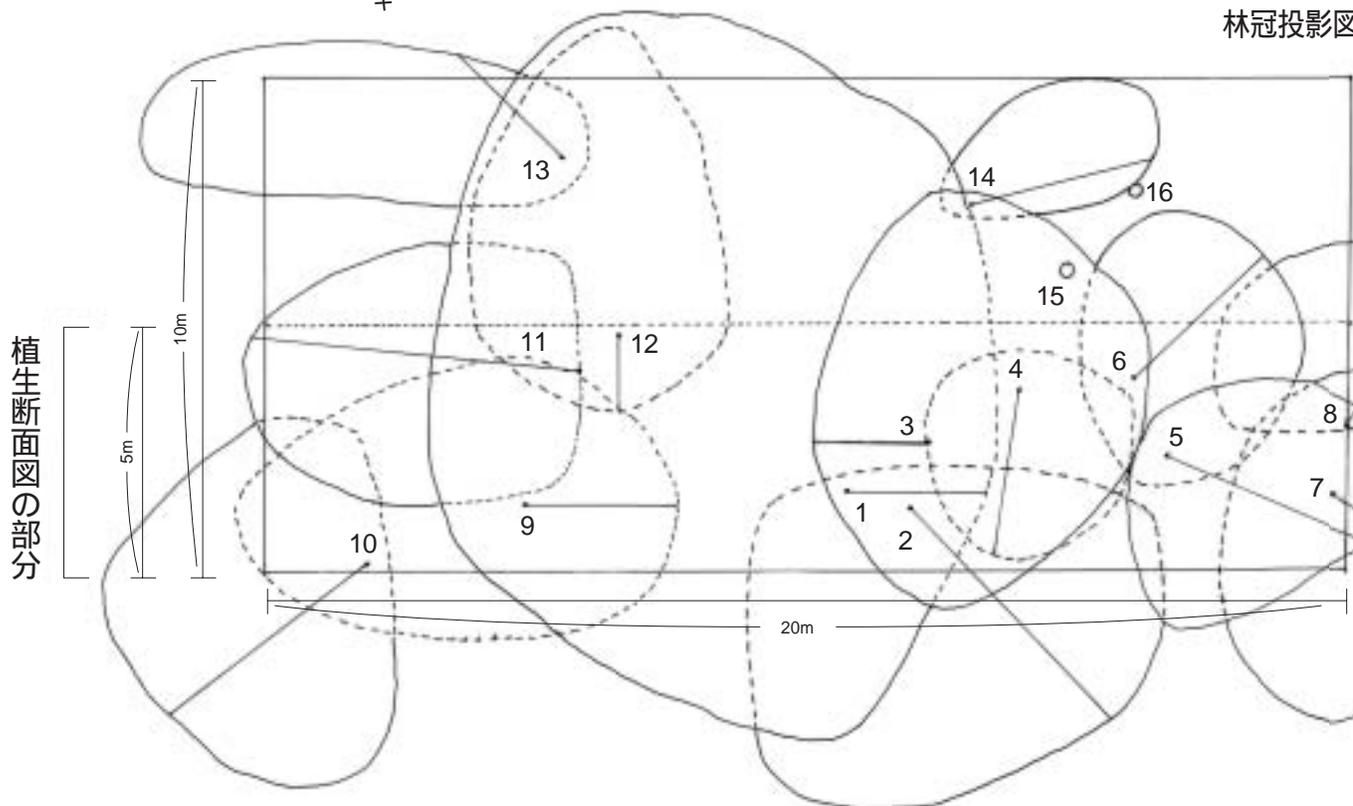
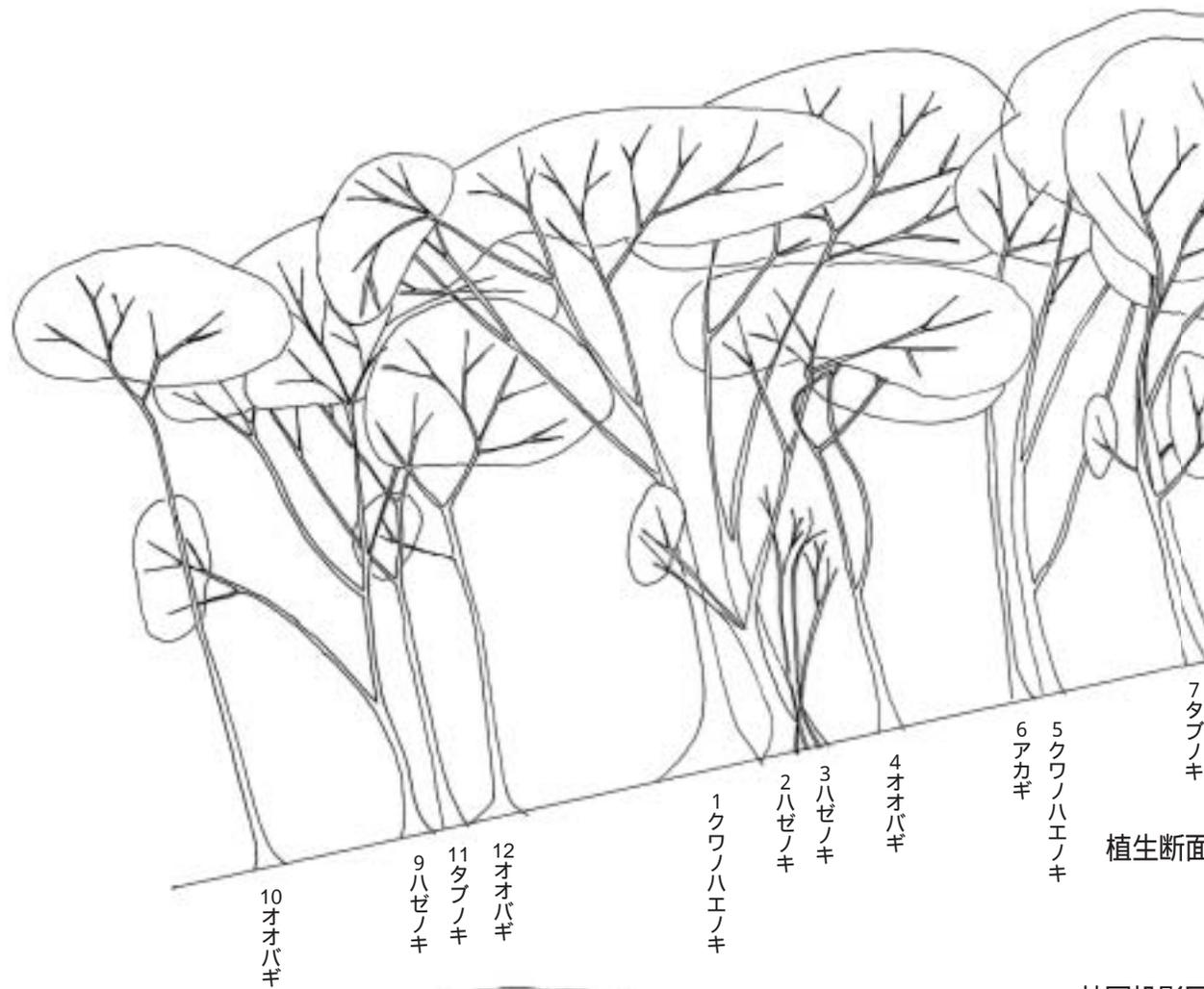
サツマサンキライ

クワノハエノキ

ウキウガキ

クロツグ

代表的な森林：フシャティムイ御嶽林の植生断面図

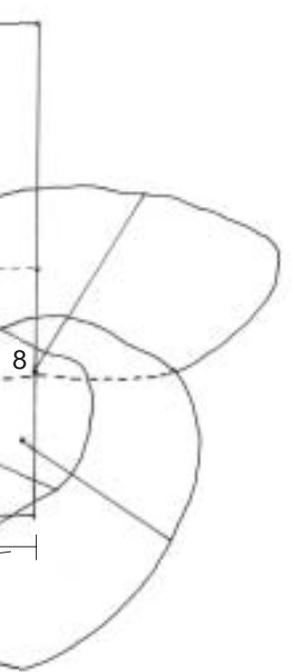




7  
8  
タブノキ

断面図

影図



### フシャティムイ御嶽の森林植生票

群落名	クワノハエノキーフウトウカズラ群落	
調査面積	200m <sup>2</sup> (10m×20m)	
群落高	高木層 10~14m	亜高木層 5~10m
斜面方位	南	傾斜角 12°
植被率	低木層 1~5m	草本層 1m
	高木層 95%	亜高木層 60%
	低木層 45%	草本層 70%

出現種	優占度・群度	出現種	優占度・群度
高木層		草本層(つづき)	
クワノハエノキ	3・2	リュウキュウガキ	1・1
ハゼノキ	3・2	ナガミボチョウジ	1・2
タブノキ	3・2	グミモドキ	+・2
オオバギ	2・1	フクギ	+
アカギ	1・1	イスノキ	+
亜高木層		ヤブツバキ	+
リュウキュウガキ	3・2	ツゲモドキ	+
クスノハガシワ	2・2	ハマビワ	+
モクタチバナ	2・2	イヌマキ	+
イスノキ	+	クスノハガシワ	+
ハマイヌビワ	+	タブノキ	+
オオバギ	+	アカギ	+
フクギ	+	ヤブニッケイ	+
低木層		リュウキュウコクタン	+
リュウキュウガキ	1・2	シマグワ	+
クロツグ	1・2	ヒラミレモン	+
クスノハガシワ	1・1	ゲッキツ	+
シマヤマヒハツ	1・1	オオシマコバンノキ	+
ヤブニッケイ	+	イヌビワ	+
モクタチバナ	+	マサキ	+
ナガミボチョウジ	+	ギンネム	+
ショウベンノキ	+	シマヤマヒハツ	+
オオムラサキシキブ	+	ボチョウジ	+
ハゼノキ(萌芽)	+	ソテツ	+
ツゲモドキ	+	サツマサンキライ	+
トベラ	+	ソメモノカズラ	+
草本層		タイワンアキグミ	+
フウトウカズラ	4・4	ハチジョウシダ	+
クワズイモ	2・3	オニヤブソテツ	+
モクタチバナ	1・1	ホシダ	+

- |           |         |
|-----------|---------|
| 1 クワノハエノキ | 9 ハゼノキ  |
| 2 ハゼノキ    | 10 オオバギ |
| 3 ハゼノキ    | 11 タブノキ |
| 4 オオバギ    | 12 オオバギ |
| 5 クワノハエノキ | 13 オオバギ |
| 6 アカギ     | 14 タブノキ |
| 7 タブノキ    | 15 枯死木  |
| 8 タブノキ    | 16 枯死木  |